

Seven Rivers

富山県議会をわかりやすく。



https://www.fujiidaisuke.com/
電話:076-471-7119

セブン・リバーズの定期読者の申し込みは、右のQRコード or お電話で!

[セブン・リバーズとは?]

富山平野を流れる、七大河川のこと。3000mの立山から深海1000mの富山湾に流れこむ急峻な七大河川の治水対策が、明治時代の富山県議会の大きな政治課題だった歴史を踏まえ、藤井だいすけ県政報告のタイトルにいたしました。



“新しい富山”に変えていく、大切な一歩

穏やかな年末年始をお過ごしのことと思います。新型コロナウイルスの影響で、私たちの生活は一変しましたが、ワクチンや治療薬の情報も入ってきており、少しずつ明るい見通しが立ってきたように思います。

2020年は富山県政においても激動の年となりました。50年ぶりの保守分裂となった県知事選挙では新田八朗さんが激戦を制し初当選を果たされ、また野上浩太郎参議院議員が富山県で松村謙三さん以来70年ぶりの農林水産大臣に就任されました。2021年4月には、富山市長・市議会議員選挙も予定されており、「新しい富山」の動きはさらに加速するはずです。

私自身にもちょっとした変化が。本会議場での議席番号が7番から8番に上がり、自民党の文教公安部会では部会長代行を務めることになりました。どちらも県知事選の影響で会派が分かれたことが要因です。次の4月で県議になって丸2年。さらなる研鑽に励み、富山の発展のために頑張ります!

藤井だいすけの 潜入レポート



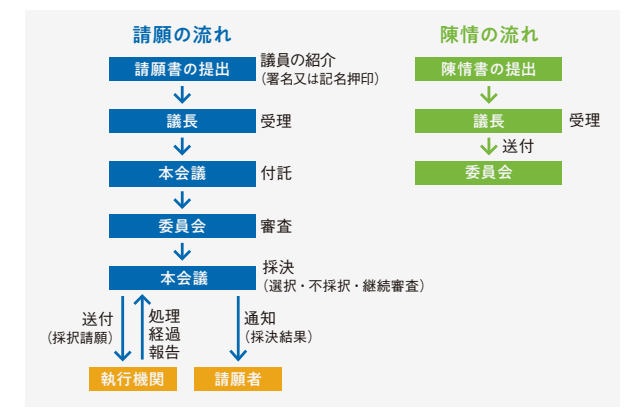
「県議会、どうでしょう!?!」

第4回 / 初めての請願のとりまとめ

県議会には摩訶不思議なできごとや出来事がいっぱいあります。そんな県議会の不思議に新人議員の藤井だいすけが、さながら潜入取材のごとく体験レポートをお届けいたします。思わぬ本音が漏れることも?



令和2年9月定例会で、私にとって初めての経験となる請願と意見書のとりまとめを行い、無事採択されました。そのきっかけは、6月の厚生環境委員会で、私が介護事業所の算定特例についての質問を行ったことにあります。算定特例はコロナ禍で経営が苦しくなった介護事業所支援という名目の報酬上乘せでしたが、利用者への負担(1割~3割)が生じることやサービスの公平性が担保されないこと、運用が現場任せで混乱が避けられないこと等を指摘しました。



そのことを「認知症の人と家族の会 富山県支部」の方々から知ってくださり、ぜひ私を紹介議員として請願を出したい、との連絡が入りました。その後、内容の精査や調整を経て、自民党のみならず社民党、共産党、公明党、会派至誠の全ての会派の賛同をいただくことになりました。超党派でのとりまとめも、当然初めてでしたが、各会派の控室にお邪魔して了承を得る活動は、大変勉強になりましたし、県民の声が議会を通して反映されていく実感を持つことができました。その後、11月定例会でも2つの請願の紹介議員となったところです。

そもそも請願とは何でしょうか。県政について議会に意見や要望を伝える手段として、請願と陳情があります。請願は、憲法で保障された国民の基本的権利と定められており、手続きには紹介議員が1人以上必要。その後委員会に付託され、本会議での採決まで進みます。陳情には、紹介議員は必要ありませんが、本会議での採決はされません。同じ意見や要望でも、法的拘束力があってより大切に扱われるのが請願なのです。誰でも請願を出す権利がありますので、提出を検討したい方は、私でよければご相談ください。

藤井だいすけからのお知らせ!

- 1 セブン・リバーズ定期読者の申し込みは公式サイトから!
- 2 Facebook公式ページの登録と「いいね」を!
- 3 県政報告会を出前します! どこでも何人でもOKです

藤井大輔 (ふじい・だいすけ) プロフィール

1973年(昭和48年)1月19日富山市生まれ。新庄幼稚園、新庄小学校、新庄中学校で育つ。富山中部高校理科、大阪大学経済学部を経て、95年株式会社リクルートに就職。主に東京で雑誌の編集に携わる。2004年にはフリーマガジン『R25』を創刊し、編集長として毎週60万部発行する。40歳を機に地元・富山に戻り、現在は新庄で高齢者福祉事業を行う株式会社アポケアとやま専務取締役。社会福祉士の国家資格を持ち、地域包括支援センターの相談員としても勤務。著書に『R25のつくりかた』(日本経済新聞出版)、『逃げない・めげないカイシャ道』(ミシマ社)がある。2019年4月、富山県議会議員に初当選。会派は、自由民主党富山県議会議員会に所属。21歳の長男と13歳の長女の父。

藤井大輔へのお問い合わせは
下記までご連絡ください!

藤井大輔事務所
TEL: 076-471-7119
FAX: 076-471-7129
Email: d-fujii@fujiidaisuke.com

新田県政 最初の県議会 11月定例会 本会議 & 委員会ダイジェスト

本会議
代表質問をはじめます

委員会
厚生環境
LINE相談を開設するなど環境整備していく

富山県の自殺者が上昇率全国1位に。その対策は？

新田県議会議長

新田知事の県政へのビジョンをお聞きしたい

鹿熊自民党県議会議長

富山県を「アフターコロナのモデル県」にする、その戦略は？

富山県を「アフターコロナのモデル県」にする、その戦略は？

これ以上コロナの犠牲を増やしてはならない…

フジイ

県民主役の富山県を目指していきたい

新田知事

自分の言葉で伝えようとされている…

代表質問
来年3月に富山県教育大綱の改定が行われる。知事の教育ビジョンとは？

学習状況調査の平均正答率が全国トップクラスであることは教育県富山として誇るべきもの。一方、AIやIoTの技術革新やグローバル化等の時代の潮流に対応できるよう、つめこみ教育から問題解決型の教育への転換が求められている。子ども達が社会に出て活躍できる力を育める最高の環境を提供し続ける等、教育への思い切った投資が必要。具体的な今後のビジョンには、中学・高校でのプロジェクト学習の導入、小中学校での少人数教育の拡充、質の高い教員の確保対策、スクールサポートスタッフや部活動指導員の活用や奨学金情報アウトリーチアクションを考えている。(新田 知事)

だすけの視点 | 自民党会派の代表質問の原案を作成

新田県政最初の県議会となった11月定例会。私には本会議での質問機会はなかったのですが、その代わりに鹿熊議員による自民党議員会の代表質問全22問のうち4問(①富山県警察の機能強化②富山県教育大綱の改定③県立高校再編④特別な支援が必要な子ども達への教育)の原案を作成することに。これは、今回から自民党の文教公安部会の部会長代行を、1期の私が務めることになったからです。大変よい勉強の機会となりました。



代表質問
公約に「特別支援教育将来構想会議」とあったが、どんなプロセスを想定？

特別な教育的支援を必要とする子ども達は、全体として増加傾向にあり、一人ひとりの教育的ニーズに的確に応える指導の充実を図ることが必要。また自立と社会参加を促すため、就労等に向けた支援を手厚くすることが大切。令和3年度から設置予定の富山版「特別支援教育将来構想会議(仮称)」では、これまでの取り組みを評価検証するとともに、支援が必要な子どもや保護者を社会全体で支え、一人ひとりが社会で活躍できるような方策について検討していきたい。具体的には、教員の専門性向上、ICTの活用による指導の充実、関係者の連携支援の強化等をイメージしている。(新田 知事)

議員質問
10月の自殺者増加率が全国1位に。対策として相談体制強化が必要では？

厚生労働省発表の本年10月の自殺者数(速報値)が2,153人で、前年同月の1,539人(確定値)よりも1.4倍増加した。富山県では27人で前年同月の7人の約4倍に増加している。本年では2月と7月を除き全ての月で前年を上回っており、10月時点で182人となった。自殺者の急増と新型コロナの関連は断定できないが、自殺防止対策として10/1から「こころの電話相談(076-428-0606)」の回線増や、11/6にはLINEでのコロナ相談@富山県を開設、インターネットの検索連動型広告の前倒しやスポットCMの放送、支援策を記したチラシを配布するなど、相談しやすい体制づくりに努めていく。(菊地 厚生部健康課長)

石井県政 最後の県議会 9月定例会 予算特別委員会ダイジェスト

1 委員長、知事に質問です

2 富山県を「アフターコロナのモデル県」にする、その戦略は？

3 県内の産業・農業をはじめ、教育・文化・医療・福祉の各分野でデジタル化を推進し、幸福度日本一を目指します

4 東京に負けないデジタル人材の登用も考えたい

5 富山の魅力向上のきっかけになるかも！

石井知事

滝経営管理部長

代表質問
生活者に価値ある行政サービスのためにどのように県庁のデジタル化を行うのか？

2020年3月に策定した「富山県データパレット2024」では、情報通信システムやデータ活用による次世代型行政サービスの提供、IoTやAI、ロボット等の新技術の導入による県民利便性の向上を進めることとしている。具体的には、光ケーブルの県内世帯カバー率を100%整備することや、県庁内のLANネットワークの全面的見直し等を行い、行政サービスの効率化を図っていく。また、県が保有する統計データや施設の写真データなど1100件程度をオープンデータ化して公開しており、県内全域のバスの位置や遅延のリアルタイム情報が「Yahoo!乗換案内」で活用されている事例もある。(滝 経営管理部長)

だすけの視点 | デジタル化の推進は新田県政でも継承

石井県政最後の県議会となった9月定例会ですが、私の問題意識は、アフターコロナ時代のモデル県になるためにデジタル化をどこまで本気で推進していくのか、ということでした。年度内で光ケーブル100%整備することや県庁横断のデジタル部局の創設、デジタル人材の副知事クラスの登用等、かなり踏み込んだ前向きな答弁がありました。その方向性は、新田県政にも受け継がれ、デジタル化を強力に推進する基盤となっていく予定です。



議事録全文はこちらから！

代表質問
データサイエンス人材を世界中から公募し副知事クラスのCDOとして登用しては？

東京都ではスマート東京実施戦略を策定し、その実務を行うICT戦略担当の副知事に、元Yahoo!社長である宮坂学氏を選任されている。本県でも、デジタル化の推進で全国のモデル県を目指すために、令和3年度には部局横断的な新たな組織の創設を検討していく。副知事は本県では条例で1名となっており、仮に複数置く場合は条例改正を議会に諮ることになる。まずは県として、民間企業において豊富な知識・経験があり、県庁のデジタルトランスフォーメーション(DX)改革にも意欲のある人材が実際に見つければ、どのような役職・権限でやってもらうべきか、前向きに検討したい。(石井 知事)

議員質問
地元新庄地域では上流域の流量が下流域を上回る河川改修の事例も。その対策は？

県管理河川の整備に当たっては、上流の流下能力が下流より大きくならないように、基本的には下流から順次計画的に進めている。とはいえ、整備区間に鉄道橋などの大規模な橋梁の架け替えを伴う場合には多額の費用と長い年月を要することから、事業効果の早期実現のために上流部を先行して整備することもあり、県管理河川では白岩川など5カ所がボトルネックとなっていると認識。近年、全国的に河川の氾濫による大規模な浸水被害が相次いでいることから、県としては必要な予算の確保に努め、県民の安全・安心のために河川整備にしっかりと取り組んでいきたい。(江幡 土木部長)